



見たい知りたいに応えます

カタポケは株式会社モリサワが開発したデジタルブック。スマートフォンやタブレット端末の無料アプリ、パソコンのウェブブラウザ上で閲覧できます。アプリ上での閲覧は紙の広報紙に近い形でページをめくることができ、操作は簡単。対応言語は日本語と英語、韓国・朝鮮語、中国語（繁体・簡体）、タイ語、ポルトガル語です。詳しくは、<http://catapoke.com/>をご覧ください。

多言語対応のほかにも、今号から広報まえばしは多様に進化します。表紙のデザインを一新。紙面レイアウトをすっきりさせ、読みやすく改良しました。写真や色使いも文章を引き立てるように配慮。皆さんに分かりやすく、心に響く情報を届けてい。そんな思いで職員一同、心を込めて紙面作りに取り組みます。

広報まえばしは、今年もさまざまなチャレンジで市民の皆さんの「見たい 知りたい」に応えます。



多言語対応で市内に在住の外国人や、インバウンドで本市を訪れた外国人にも市政情報を提供できます。



読み上げ機能にも対応。作業しながら聞き取りも可能です。

特集 01

多言語対応電子書籍 カタポケ配信開始  
広報まえばしが進化します

図 市政発信課 ☎ 027-898-6642

今号から広報まえばしの内容を、多言語に対応したデジタルブック閲覧サービス「カタポケ」で配信。全7言語での配信は県内の自治体では初めての取り組みです。



広報まえばし  
デジタル版は  
こちらから

特集 02

徘徊高齢者の早期発見・保護サービス  
つながりと先端技術で支えます

図 介護高齢課 ☎ 027・898・6275

高齢社会の進行に伴い、認知症による徘徊などが理由の行方不明者は全国で1万人以上に。保護された行方不明者の迅速な身元特定が課題となっています。

早期発見・保護のために

高齢者などが徘徊で行方不明になった場合に備え、本市では徘徊高齢者の家族支援位置情報提供サービスを実施。早期発見・保護のため取り組みを行ってきました。さらに今回、徘徊高齢者等事前登録制度を開始。警察や県内のシステム開発企業と連携し、4月から手のひら静脈認証を活用した徘徊者身元特定支援サービスの実証実験を始めます。これは、あらかじめ登録した手のひら

の静脈パターンを使い、万が一のときに保護された行方不明者の身元を特定するもの。市内在住の65歳以上で認知症による徘徊行動の恐れのある人などが対象で登録は無料です。

介護高齢課係長の中島は「事前登録は市役所や前橋・前橋東警察でも可能です。制度の利用で少しでも多くの人に、安心して過ごしてもらいたいですね」と語ります。

登録者増と広域ネットワーク

身元特定に役立つこの制度、現状では市外で保護された場合には対応できないなどの課題もあります。県警本部子ども・女性安全対策課課長補佐の中澤さんは「今後はこの認証システムを全国へと広げ、適切な情

報共有で身元確認を早め、本人や家族の安心に役立ててほしい」と語ります。

テクノロジと行政などのネットワーク強化、そして何より、人々とのつながりや見守りで、認知症になっても安心して暮らせるまちへ。前橋の市民力が、今試されているのです。

サービス利用の流れ

- ① 事前に市役所介護高齢課や警察で、身体的特徴や緊急連絡先を登録し、専用機器で静脈パターンを読み込む
- ② 身分証明書などを持たずに外出し保護された場合、専用機器に手のひらをかざし、身元情報が判明



県警本部  
子ども・女性安全対策課  
課長補佐 中澤 和幸さん